**性能評価申請図書**

(防耐火構造　屋根)

**申請する内容は以下のとおりです。この申請図書及びこの申請に関連して提出する資料の記載事項は、事実に相違ありません。**

**(1)会社概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 会社名 | ○×株式会社 |
| 所在地 | 〒103-0000　東京都中央区日本橋○○町＊―＊―＊＊　△△ビル＊階 |
| 電話番号 | 03-\*\*\*\*-\*\*\*\* |
| 代表者名 | ○×　太郎 |

**(2)構造名**

(1/6)めっき鋼板製折板屋根

(2/6)ステンレス鋼板製折板屋根

(3/6)無機質系断熱材裏張／めっき鋼板製折板屋根

(4/6)無機質系断熱材裏張／ステンレス鋼板製折板屋根

(5/6)合成樹脂系断熱材裏張／めっき鋼板製折板屋根

(6/6)合成樹脂系断熱材裏張ステンレス鋼板製折板屋根

**(3) 仕様範囲の説明資料(性能評価試験を行う試験体の仕様と構造の仕様の比較)、**

**構造説明図、施工方法の仕様書**

「別紙」のとおり。

**(4)その他**

・大臣認定書写し

(評価対象に大臣認定品が含まれる場合)

・その他、必要とする資料

(事前相談において担当者から要望があった場合)

※これにより取得した個人情報は、性能評価事業の実施並びに性能評価、試験、システム審査、標準化、調査研究の事業に関する情報をお知らせするために使用し、第三者への開示を行わないなど個人情報保護法に則った適正な管理を行ってまいります。

v190115

別　紙

記載例

1.試験体の選定：

試験体の選定を表1～表3に示す。

表1　仕様・試験体の寸法

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　目 | 仕様 | 試　験　体 | － |
| 支持部材(母屋等)間隔 | ○(±●)mm以下 | ○mm | － |
| 葺材の働き幅 | ○(±●)mm以下 | ○mm | － |

調達に係る項目です。

材料の発注及び確認に必要な情報となります。試験体管理のチェック項目に影響しますので、試験体に再現する材料に記載をしてください。

項目ごとに番号を通し番号でつけてください。

証明書の右肩に当該番号を記載してください

試験体の諸元を記載してください。数値は全て確定値(範囲を持たない数値)で記載してください。

表2　仕様・試験体の主構成材料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| № | 項　目 | 仕様 | 試　験　体 | 製造元/購入先/証明方法 |
| (1) | タイトフレーム | 材料：①～●の一①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)厚さ：○mm以上②冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)の一部(鋼種：SUS430、SUS445J1、SUS445J2、SUS447J1)厚さ：○mm以上・・・寸法：幅○(－●)mm以上、高さ○(－●)mm以上、底部幅○(＋●)mm以下降伏点：205N/mm2以上 | 材料：①①同左(同左)厚さ：○mmめっき鋼板を試験体とした場合、同厚さ以上のフェライト系ステンレス鋼を範囲として含めることが可能です。オーステナイト系ステンレス鋼を含めるためにはオーステナイト系を試験体に選定する必要があります。寸法：幅○mm、高さ○mm、底部幅○mm降伏点：205N/mm2 | 市販品/試験体製作メーカにて購入/ミルシート |
| (2) | 葺材 | 形状：○○式折板寸法：働き幅○(＋●)mm以下、山高○(－●)mm以上、下底幅○(＋●)mm以下塗装塗布量：表面側：○g/m2以下(有機質固形量)裏面側：○g/m2以下(有機質固形量)　種類：・・・・構成：鋼板及び裏打材(あり又はなし) | 形状：同左寸法：働き幅○mm、山高○mm、下底幅○mm塗装塗布量：表面側：○g/m2(同左)裏面側：○g/m2(同左)　種類：アクリル樹脂系構成：鋼板及び裏打材(なし)仕様：A材料：①①同左(同左)厚さ：○mm降伏点：205N/mm2 | ○○/○○/○○ |
|  |  | 鋼板 | 仕様：A又はB |
|  |  |  | Aめっき鋼板 | 材料：①～●の一①塗装溶融亜鉛－5％アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318)②溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼　　板(JIS G 3317)・・・厚さ：○～○mm降伏点：205N/mm2以上 |
| Bステンレス鋼板 | 材料：①又は②①冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)の一部(鋼種：SUS430、SUS445J1、SUS445J2、SUS447J1)②塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320)の一部(鋼種：SUS430、SUS445J1、SUS445J2、SUS447J1)厚さ：○～○mm降伏点：205N/mm2以上 |  |

つづく

試験体に用いる材料について、

製造元：市販品、自社製、○○社製、、、等

購入先：試験体製作メーカにて購入、申請者にて市販品購入、申請者にて製造元より購入、、、。など

証明書方法：材料に印字、製造証明書、ミルシート、当日配合を確認、、、等

を記載してください。

つづき

表が2ページにまたがる場合は“つづく”と記入してください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 表が2ページにまたがる場合は“つづき”と記入してください。 | 葺材 | 裏打材 | 仕様：A～Cの一 | 仕様：AAなし材料：なし | － |
|  | Aなし | 材料：なし |
| B無機質系断熱材 | 材料：①～●の一①●●樹脂系繊維不織布張ガラス繊維シートガラス繊維シート組成(質量％)：ガラス繊維　　　　　　○以上●●樹脂　　　　　　　○以下●●樹脂系繊維不織布質量：●g/m2以下②●●不織布張ロックウールフェルトロックウールフェルト組成(質量％)：ロックウール　　　　　○以上●●樹脂　　　　　　　○以下●●不織布質量：●g/m2以下③人造鉱物繊維保温材(JIS A 9504)・・・密度：○(－●)kg/m3以上厚さ：○～10mm |
| C合成樹脂系断熱材 | 材料：①～●の一①●●フォーム組成(質量％)：有機質系樹脂：○(±●)●●樹脂　　　　　　○(±●)充てん材：○(±●)・・・・　　　　　　○(±●)・・・・　　　　　　○(±●)難燃剤：○(±●)水酸化アルミニウム　○(±●)・・・・　　　 　　 ○(±●)三酸化アンチモン　　○(±●)密度：○kg/m3以上②水酸化アルミニウム混入●フォーム組成(質量％)：・・・密度：●kg/m3以上③●●樹脂系フォーム／アルミニウム合金はく(国土交通大臣認定不燃材料：NM-XXXX)密度：●kg/m3以上・・・厚さ：○～10mm |

表3　仕様・試験体の副構成材料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| № | 項　目 | 仕様 | 試　験　体 | 製造元/購入先/証明方法 |
| (3) | 吊り子 | 材料：①～●の一　①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)　②溶融亜鉛－5％アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)・・・厚さ：○mm以上取付間隔：たる木間隔と同じ | 材料：①①同左(同左)厚さ：○mm取付間隔：○mm | ○○/○○/○○ |
| (4) | タイトフレーム取付材 | 材料：①又は②①○○ねじ材質：1)～X)の一1)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)2)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)・・・寸法：胴部径φ○×長さ○mm以上取付間隔：○箇所/山以上②アーク溶接溶接幅：○mm以上隅肉溶接長さ：○mm以上取付間隔：○箇所/山以上 | 材料：①①同左材質：1)1)同左(同左)寸法：胴部径φ○×長さ○mm取付間隔：○箇所／山 | ○○/○○/○○ |
| (5) | 吊り子固定用留付材 | 仕様：(1)及び(2)(1)●●ボルト寸法：M○×○mm以上 (2)ナット寸法：M10以上材質：鋼製又はステンレス鋼製留付間隔：○mm以下 | 仕様：(1)及び(2)(1)●●ボルト寸法：M○×○mm(2)ナット寸法：M10材質：鋼製留付間隔：○mm | ○○/○○/○○ |
| (6) | 裏打材固定用接着剤(裏打材を用いる場合) | 材料：①～●の一①○○系接着剤②○○系接着剤・・・塗布量：○(＋●)g/m2以下(有機質量) | 材料：なし | ○○/○○/○○ |

2.仕様の構造説明図：

仕様の構造説明図を図1～図Xに示す｡

※構造説明図は、透視図、断面図、葺材形状図、吊り子詳細図及びタイトフレーム形状断面図等を作成して下さい。(透視図及び断面図には、表2及び表3の全項目を図示するように作成して下さい。また、仕様の構造が複数ある場合は、全て記載してください。

4.施工方法：

施工図を図○～図○に示す。

施工図は以下の手順で行う。

(1)○○○の取り付け

　・取り付け

留付材（例：ステープル、鉄丸くぎ等）

留付間隔

留付場所（例：胴縁、断熱材等）

その他

　・留付材

例：目地部には建築用リーリング材を施す。

その他

　・目地

下塗：施工仕様（例：塗厚、養生期間等）

中塗：施工仕様（例：塗厚、養生期間等）

上塗：施工仕様（例：塗厚、養生期間等）

その他

　・仕上げ

　・施工時注意事項

例：たわみ、しわのないようにする。

　　不陸がないように高さ調整する。

その他

(2)□□□の取り付け

規格化された施工仕様がある場合は記載してください。

　・取り付け寸法

　・留付材

　・目地

　・仕上げ

　・施工時注意事項

(3) △△△の取り付け

・

・

・

・

(4)×××の取り付け

・取り付け寸法

・留付材

・目地

・仕上げ

・施工時注意事項

※施工図は施工手順を理解しやすい図(取り付け状況が明確に分かる図)を適宜選んで記載してください。なお、構造説明図(透視図及び断面図)にて施工手順(取り付け状況)が明確に分かる場合、施工図は省略可能です。

4.試験体選定理由

以下の考察に基づいて、上記1.に示す試験体を選定した。

(1)仕様の支持部材間隔○mm以下のため、試験可能な最大支持部材間隔(4200mm)で行い、試験荷重は、割増し荷重とした。

(2)タイトフレームは、厚さ及び幅寸法の増加に伴い強度が増し、葺材の支持能力が向上するので、厚さ及び幅寸法が最も薄い仕様を試験体に選定した。

(3)葺材(鋼板)は、以下の通り。

・鋼板種は強度及び熱性状が同等であるので、降伏点が低いものを試験体に選定した。

・塗装は可燃物が仕様に含まれるため有機質量最大かつアクリル樹脂系の塗装を試験体に選定した。

・葺材(鋼板)の厚さは、燃え抜け及び引張強度等の性能から最も薄い材料が温度の影響を受けやすくなるので、最も薄い仕様を試験体に選定した。

(4)葺材の働き幅及び山高は、働き幅が広く山高が低い仕様が強度面から見て弱くなり、たわみ量が大きくなるため、働き幅が最も広く山高の最も低い仕様を試験体に選定した。

(5)葺材(裏打材)は、用いない仕様の方が、燃え抜けの恐れが高まるので、なし仕様を試験体に選定した。

(6)吊り子は、厚さ及び幅寸法の増加に伴い、強度が増し葺材の支持能力が増すので、厚さ及び幅寸法が最も薄い仕様を試験体に選定した。

(7)タイトフレーム取付材は、支持部材に○○ねじを用いた仕様がタイトフレームの変形が大きくなり、火炎が通る亀裂等の損傷及び隙間が生じやすくなるため、ねじ仕様を試験体に選定した。

**(注意点)**

**当該ページのご提出は不要です。**

〇申請図書の表記上の注意点

句読点は“、。”としてください。

表番号や節番号は半角で記載してください。

原則として左揃えで記載してください。但し、表題及び表中の列題は中央揃えで記載してください。

　物性値の単位はSI単位としてください。

　平方メートル等の記号は、全角文字「㎡」や「m2」とせず、半角文字で「m2」としてください。

○仕様の記載について

各項目ならびに仕様の記載は、申請される内容に基づいて記載してください。

　仕様は、次のタイプ1～4のいずれかの形式で記述してください。

|  |  |
| --- | --- |
| タイプ1 | 国土交通大臣の認定番号で材料を特定注）認定品の仕様に範囲がある場合は、その認定品のうち、防火上不利なものを試験体に選定する必要があります。 |
| タイプ2 | JIS番号で材料、材質を特定注）JIS番号だけでは材料が特定できない場合は評価できない場合があります。JISに規定する種類等まで特定が必要になる場合があります。 |
| タイプ3 | 日本農林規格で材料を特定 注）集成材などの接着剤を用いる材料の場合、使用部位により接着剤も選定の対象になることがあります。 |
| タイプ4 | 組成(質量％、又は配合比等)、材質で材料を特定注）組成に範囲がある場合、試験体は防耐火性能(遮熱、遮炎、非損傷性能)上不利な配合の仕様を試験体にします。 |

○仕様の数値の表記について

以下の要領に従ってください(下記例示は単位をmmとしています。)。また、数字と単位の間にスペースは入れないでください。

　(a)仕様の数値が特定できる場合

○mm、○×○mm

　(b)仕様の数値が特定できるがばらつき(公差)を持つ場合

○(±●)mm、○(±●)×○(±●)mm

上記の場合、「〇」は基準値、「±●」は公差となります。

公差が基準値の1割以上を超える場合は、妥当性について確認が必要となる場合があります。

　(c)仕様がある範囲を持っている場合

○～○mm、○×○mm以上

〇材料調達の情報

試験体製作業者と打合せの上、各項目欄に材料の入手方法、仕様の証明方法を記入してください。

ウレタン系の材料は、ウレタン工業協会が定めるB票が必要となります。

構造計算書

必要がある場合ご提出ください。

(壁の申請高さを構造計算に依る場合)

壁の申請高さを構造計算に依る場合は、構造計算書を添付してください。

耐久計画書等

必要がある場合ご提出ください。

(評価対象に薬液処理をした木質系材料が含まれる場合)

**薬液処理がされた木材を評価対象部に使われる場合**、品質マニュアルやメンテナンス計画などの書類が必要になります。

評価対象に**薬液処理をした木質系外装材が含まれる場合**、その材の耐久性について検証した耐久計画書を提出していただきます。

なお、使用部位(状況)により、耐候性に係わるデータが必要になります。当該データ及び耐久計画書、品質マニュアル、メンテナンス計画については大臣認定申請の際に、必要な書類となります。

大臣認定の認定書写し

必要がある場合ご提出ください。

評価対象に不燃材料等の大臣認定品が含まれる場合、仕様に記載した認定番号に該当する認定書(別添を含む)の**写しを提出**してください。

また、次の目録をつけてください。

なお、仕様に範囲のあるものについては、防耐火性能上不利なものを選定する必要があります。不利なものを選定したかを確認するため、製造証明書が必要となります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 認定番号 | 認定件名 | 根拠条文・性能 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |